

文科省・厚労省 就職内定状況調査：平成 20 年 2 月 1 日現在

大学生の就職内定率は、4年連続アップ！

前年同期比 1.0 ポイントアップの 88.7%

平成 20 年 3 月 旺文社 教育情報センター

文部科学省（以下、文科省）および厚生労働省（以下、厚労省）はこの程、大学・短大等の就職内定状況を発表した。それによると、今春卒業予定で就職を希望している大学生の就職内定率（以下、内定率）は、2月1日現在で 88.7%（前年同期比+1.0 ポイント）と、4年連続アップしていることが判明した。

〈概況〉

大学生の内定率は、15年度の 82.1%を底に4年連続アップして 88.7%まで回復。これは同時期調査開始2年目の10年度（3月1日現在）とほぼ同じの高いレベル。17年度に過去最大の改善幅（前年同期比+3.2 ポイント）を記録したが、18年度はそれより+1.9 ポイント上昇し、19年度も+1.0 ポイント上昇。内定状況の本格的な好転が伺われる（[図1](#)参照）。また、大学女子が 88.2%（同+1.4 ポイント）、短大女子が 76.7%（同+6.1 ポイント）と女子の健闘が目立つ。

今回の発表は途中経過であるが、最終的な就職率は18年度（96.3%）を確実に超えるものとみられる。景気の回復に加え、「団塊の世代」の定年退職が本格化している「2007年問題」と、企業側の採用意欲の高まりによるものとみられる。

大学生の内定率を男女別にみると、男子は 89.2%（前年同期比+0.7 ポイント）、女子は 88.2%（同+1.4 ポイント）。文理別では、文系が 87.8%（同+0.8 ポイント）に対し理系は 93.0%（同+1.8 ポイント）と“理高文低”が続いている。設置者別では、国公立が 92.1%（同+1.8 ポイント）、私立が 87.7%（同+0.8 ポイント）と、国公立と私立の内定率の差は広がった。地域別では全国的にアップしたが、中国・四国地区 87.0%（同+6.2 ポイント）、近畿地区 89.7%（同+2.1 ポイント）、九州 84.0%（同+1.8 ポイント）の大幅な改善が目立つ。一方、関東地区だけは 90.7%（同▲1.2 ポイント）とダウンした。

なお、各調査結果の詳細については、以下の集計表をご覧ください。

最新の厚労省「2月 月例労働経済報告」では、「景気は、このところ回復が緩やかになっている」とし、「雇用情勢は、厳しさが残る中で、改善に足踏みがみられる」としている。「有効求人倍率は、低下している」「新規求人数は、減少している」と分析し、先行き不安感がある。このような経済の概況を反映し、大学入試での“資格志向・実学志向”は継続しそうだ。

<文科省・厚労省の調査概要>

○調査依頼先

文科省・厚労省が設置者・地域の別等を考慮して抽出。大学 62 校（国立 21 校、公立 3 校、私立 38 校）、短大 20 校、高等専門学校 10 校、専修学校 20 校、合計 112 校

○調査対象人員

大学・短大・高等専門学校……計 5,690 人、専修学校……560 人、計 6,250 人

○調査方法・内容

各大学等において、所定の調査対象学生を抽出した後、電話・面接等の方法により、性別、就職希望の有無、内定状況等につき調査を実施。

○調査時期

平成 19 年 10 月 1 日、12 月 1 日、20 年 2 月 1 日、4 月 1 日の 4 回実施

平成 19 年度

大学・短大・高等専門学校卒業予定者の就職内定状況調査（2 月 1 日現在）

*調査対象＝大学 62 校、短大 20 校、高等専門学校 10 校の計 92 校

*前年度就職率＝平成 19 年 4 月 1 日現在調査の、前年度卒業学生の最終就職率。

*カッコ内は前年度同期調査からの増減値（＋は増加、▲は減少）。

[全 体]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	73.8% (+2.0)	88.7% (+1.0)	96.3%
国公立	53.9% (+2.8)	92.1% (+1.8)	96.4%
私 立	83.6% (+1.5)	87.7% (+0.8)	96.3%
短期大学	80.2% (+2.9)	76.7% (+6.1)	94.3%
高等専門学校	57.3% (▲6.5)	99.6% (+1.2)	98.8%
合 計	73.2% (+1.4)	88.1% (+1.4)	96.3%

[男 子]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	68.3% (+2.3)	89.2% (+0.7)	96.6%
国公立	45.9% (+2.9)	91.7% (+1.8)	96.5%
私 立	80.3% (+2.0)	88.4% (+0.3)	96.6%
高等専門学校	57.3% (▲6.5)	99.6% (+1.2)	98.8%
合 計	66.9% (+1.2)	90.3% (+0.6)	96.9%

[女 子]

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
大 学	81.4% (+1.4)	88.2% (+1.4)	96.0%
国公立	66.5% (+2.4)	92.6% (+1.8)	96.4%
私 立	88.1% (+1.1)	86.8% (+1.3)	95.9%
短期大学	80.2% (+2.9)	76.7% (+6.1)	94.3%
合 計	81.2% (+1.8)	85.9% (+2.3)	95.7%

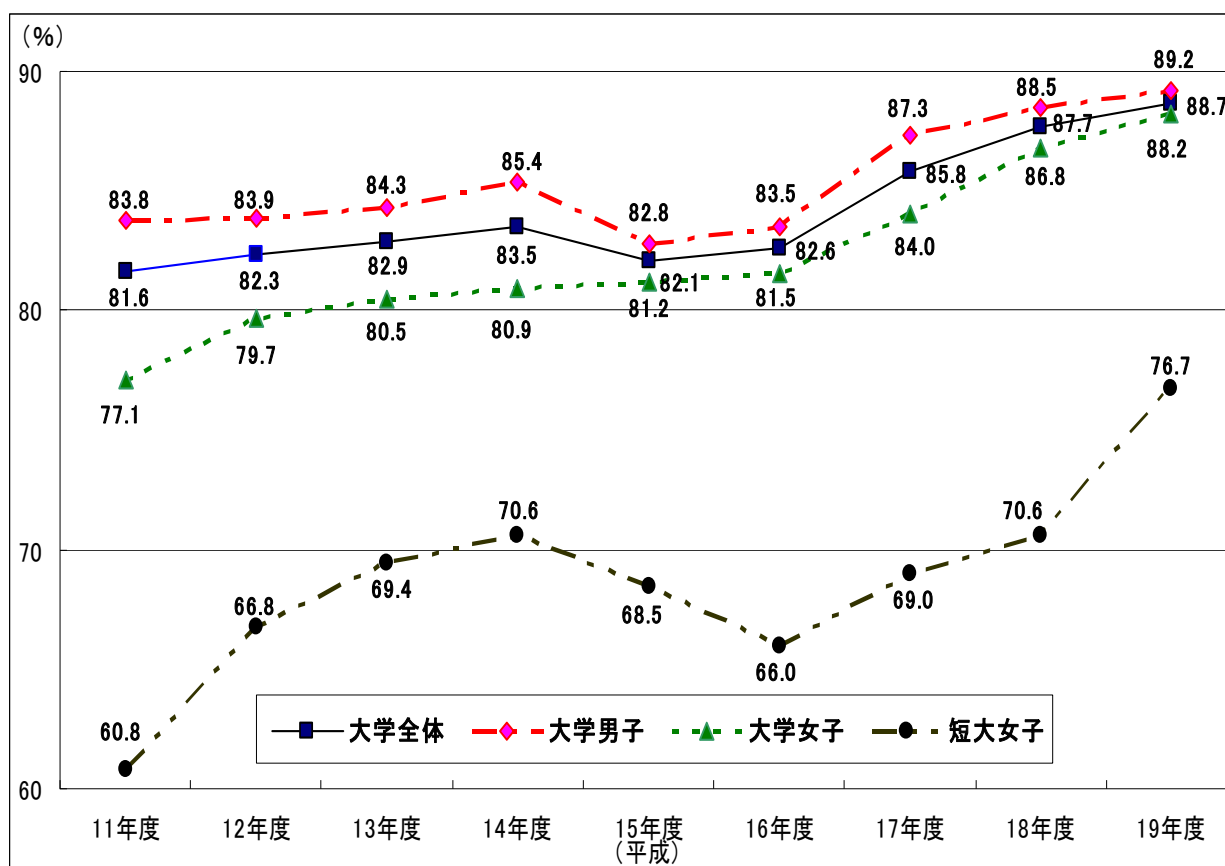
[大学：文理別就職内定率]

区分	文系	理系
大学	87.8% (+0.8)	93.0% (+1.8)
国公立	92.1% (+2.1)	92.1% (+0.9)
私立	86.8% (+0.5)	93.8% (+2.5)

[大学：地域別就職内定状況]

地域	就職内定率	地域	就職内定率
北海道・東北	84.2% (+0.6)	近畿	89.7% (+2.1)
関東	90.7% (▲1.2)	中国・四国	87.0% (+6.2)
中部	90.0% (+1.3)	九州	84.0% (+1.8)

◆大学・短大卒業予定者の就職内定率（2月1日現在）の推移◆ (図1)



平成 19 年度

専修学校卒業予定者の就職内定状況調査（2月1日現在）

*調査対象=20校（560人）

*内定率=就職希望者に対する調査時点での内定者の割合。

*前年度就職率=平成19年4月1日現在調査の、前年度卒業学生の最終就職率。

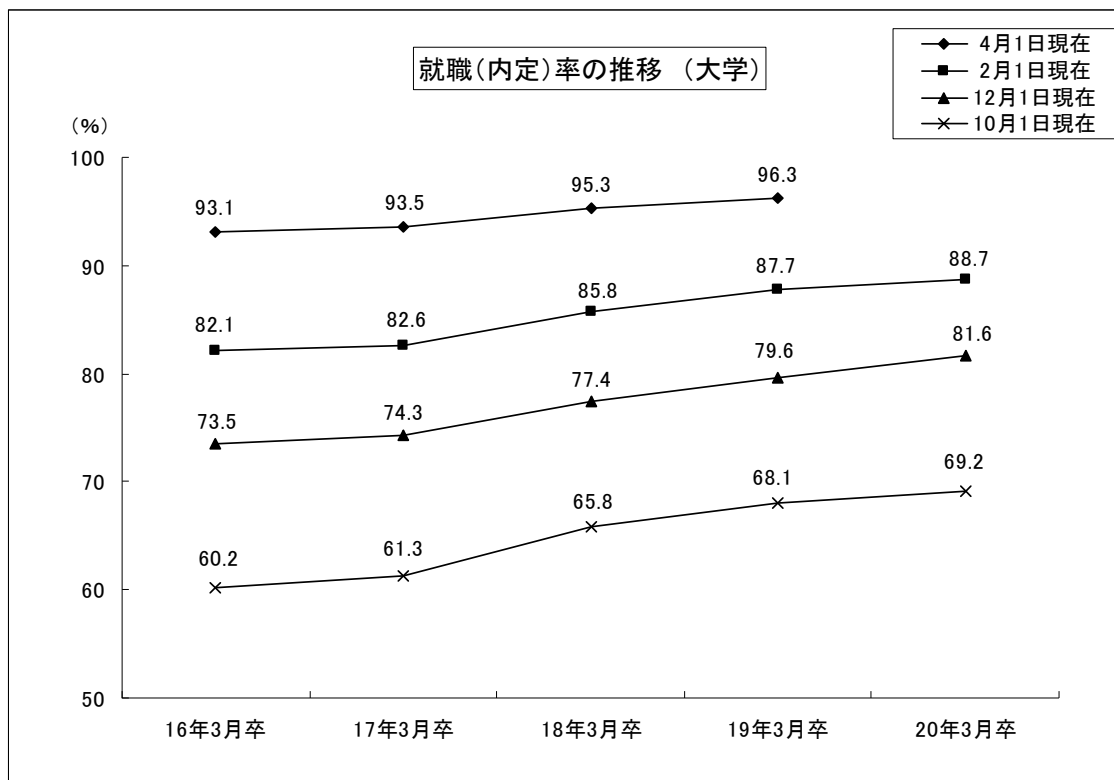
*（ ）内は、前年度同期調査からの増減値（+は増加、▲は減少）。

区 分	就職希望率	就職内定率	前年度就職率
全 体	91.4%（+0.7）	81.6%（▲1.7）	93.8%
男 子	92.1%（+1.7）	80.4%（+0.4）	92.6%
女 子	90.8%（▲0.2）	82.9%（▲3.4）	95.0%

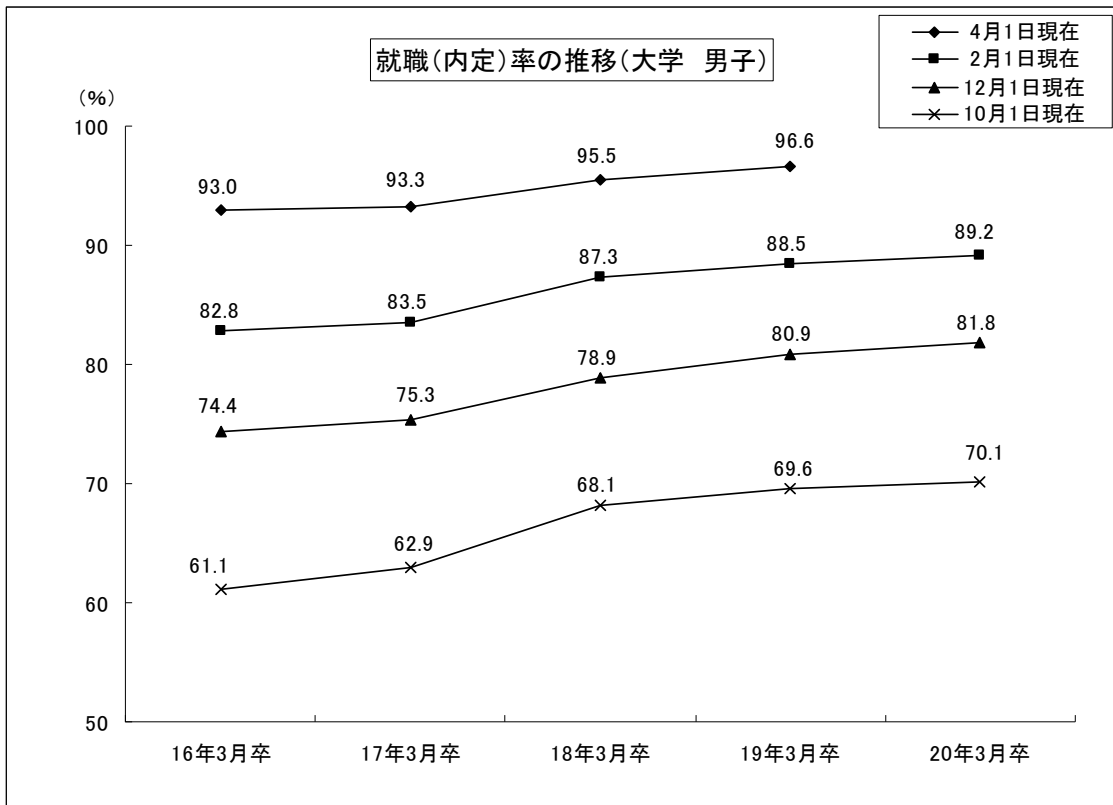
現時点での専修学校の内定率が大学・高等専門学校と比べて低い要因としては、短大卒業者と同様に専修学校卒業者の就職に当たっては、各種の資格取得が必要となる場合があり、資格取得試験によっては実施時期が学年末に行れるなどの事情があると考えられる。最終的には、前年度就職率並みかややダウンとなるだろう。

■今後、20年4月1日に今回同様の調査が行われるが、以下、(図2)～(図6)まで、年度内におけるその推移をグラフに示した。

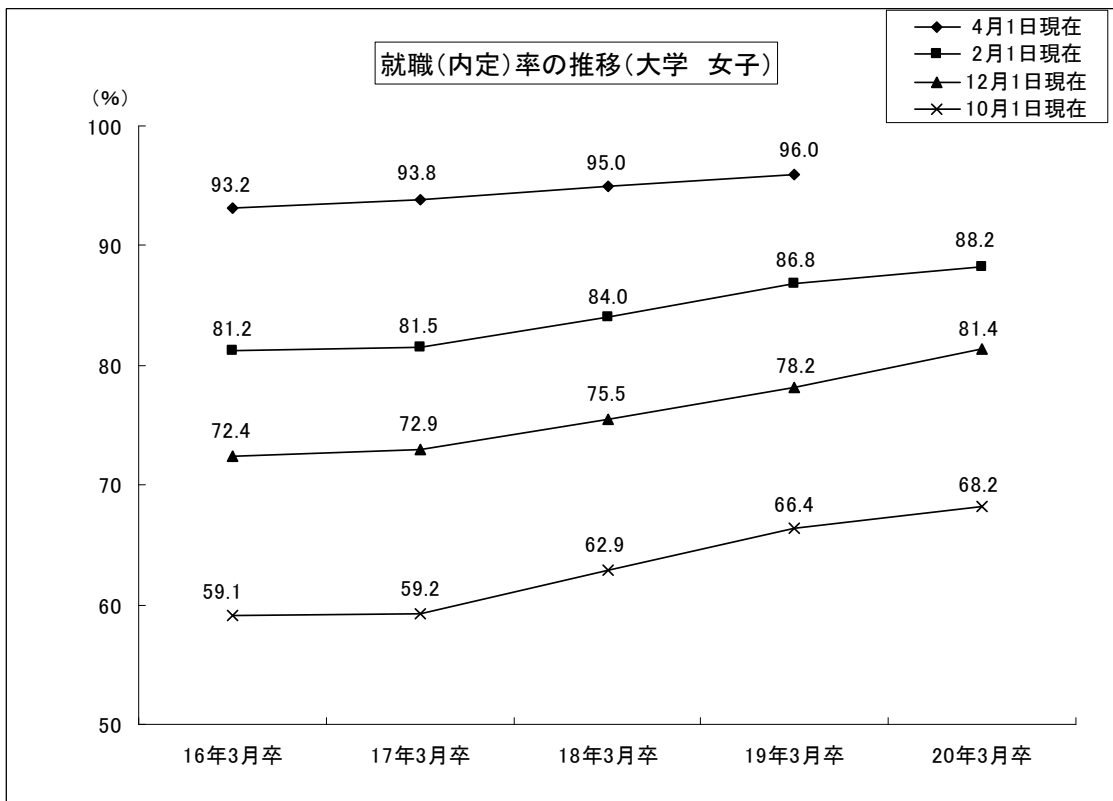
(図2)



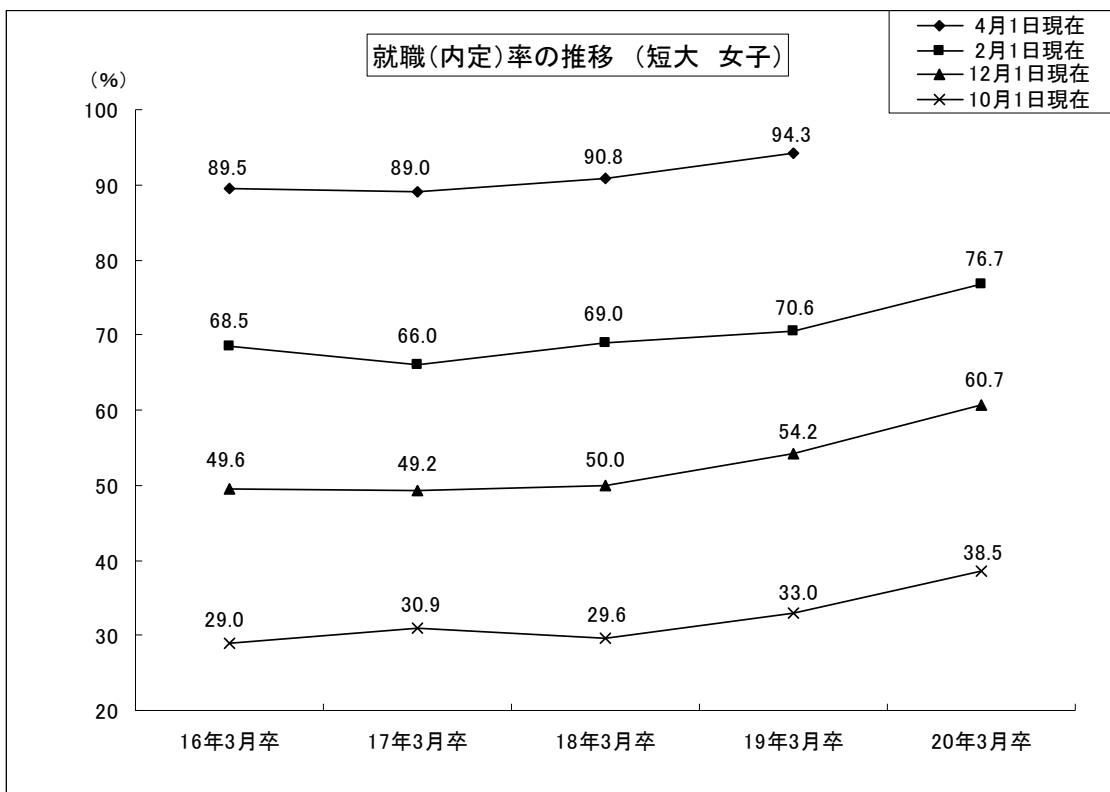
(図3)



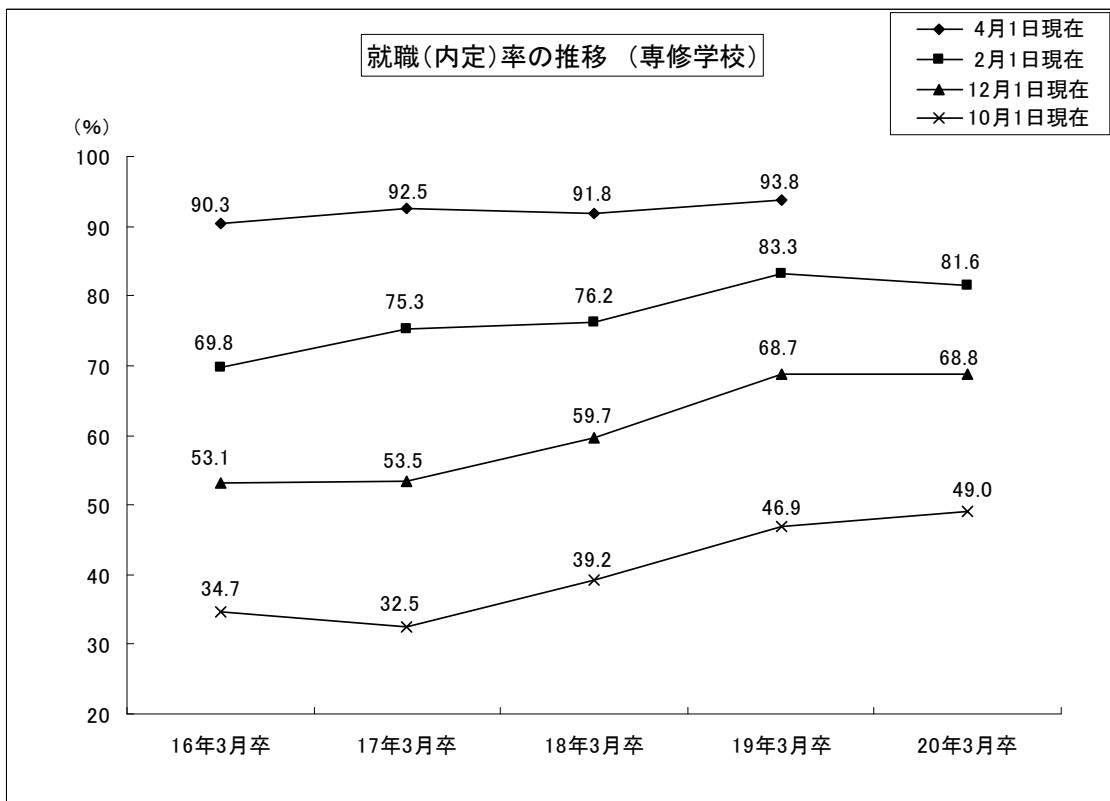
(図4)



(図5)



(図6)



参考資料

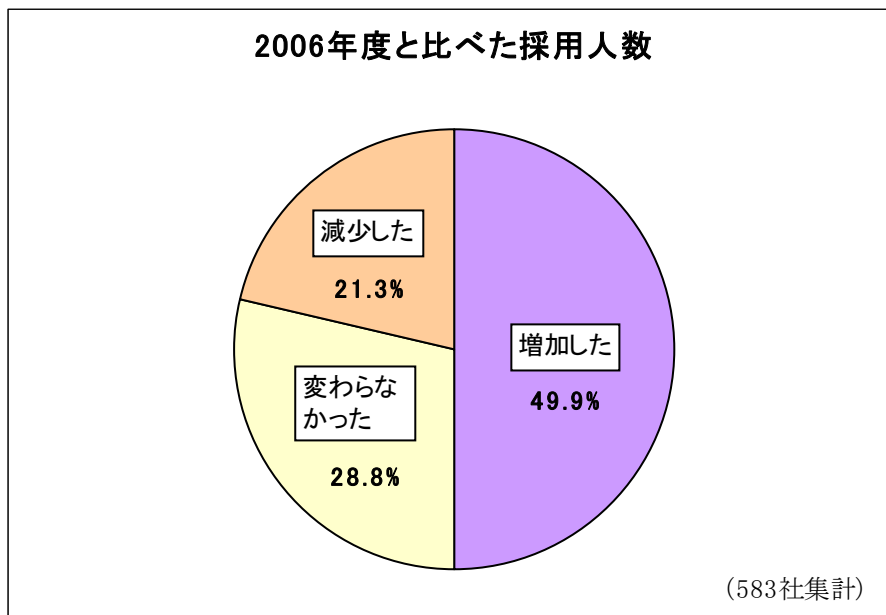
「2007年度の新卒者採用に関する調査結果」(日本経済団体連合会調べ)

調査対象：日本経済団体連合会 企業会員 1,334社

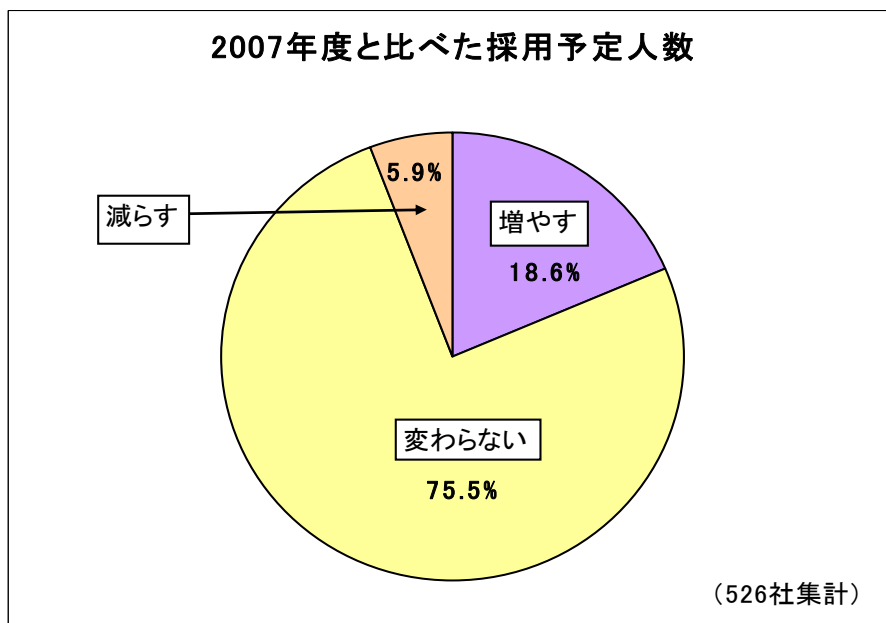
調査時期：2007年10月

回答状況：602社(有効回答率45.1%)

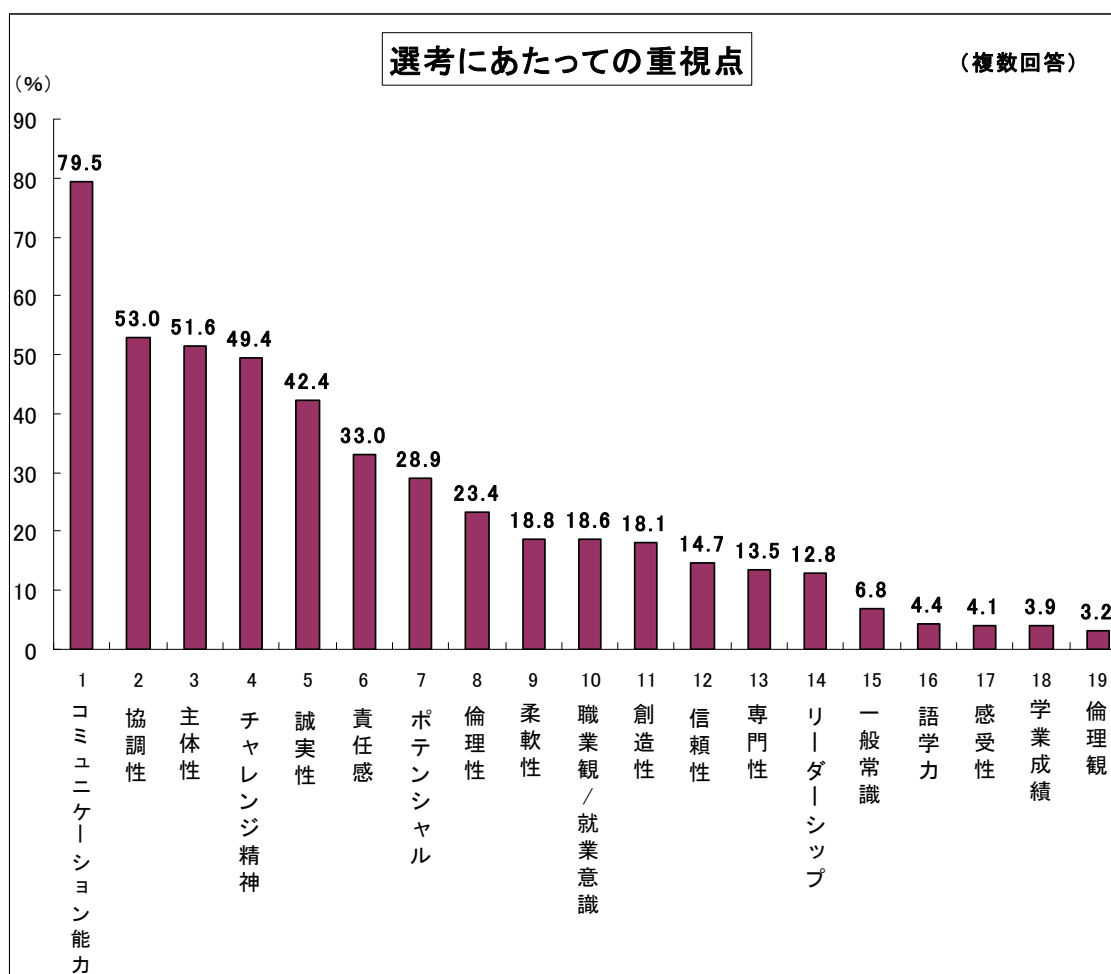
◎ 今年度(2007年度)の新卒者採用について



◎ 来年度(2008年度)の採用活動について



◎ 採用選考に関して



※ グラフでは割愛したが、「19 倫理観」の後、「クラブ活動/ボランティア活動歴」2.2%、「学校名」0.7%、「保有資格」0.0%、「その他」3.4%と続いている。